

# 文化財ニュース No.50

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター

文化財調査研究センター ■住所 加古川市平岡町新在家1224-7 〒675-0101 (中央図書館2階、JR東加古川駅から北へ徒歩約10分) ■電話 (079) 423-4088 ■FAX (079) 423-8975 ■事務取扱時間 平日・土曜9:15~18:15(日曜、祝休日、12月29日から翌年1月3日まで、毎月第2月曜は休所) ■加古川市ホームページ <http://www.city.kakogawa.hyogo.jp/>

## 西条古墳群 (尼塚古墳) 史跡整備

加古川市教育委員会は、地域の優れた文化遺産である国指定史跡西条古墳群の史跡整備事業に、平成17年度から取り組んでいます。西条古墳群は、行者塚古墳(約100m)、人塚古墳(約63m)、尼塚古墳(51.5m)の3基からなる古墳群です。平成7年には、行者塚古墳の発掘調査が実施され、金銅製帯金具の出土など、貴重な多くの発見がありました。

平成17年度は、尼塚古墳の発掘調査と公園整備の実施設計書の作成を行いました。発掘調査の結果、尼塚古墳は、全長約51.5m、高さ約6mの造出付き円墳で、埴輪の特徴から古墳時代中期(5世紀)に造られ、行者塚古墳よりは新しいことがわかりました。

平成18年度は、この成果を受けて、尼塚古墳の整備工事を行いました。公園整備は環境に配慮するため、葺石による復元は行わず、現況の樹木を間伐しながら、一定数を残して景観を整えました。伐採した樹木は粉砕してチップに加工し、再び古墳に撒いて外観を

整えるために使用しました。周濠には真砂土を敷いて整備しました。また、エントランスを東側と造出側にそれぞれ設け、説明板を配置しました。

今後、ひきつづき行者塚古墳、人塚古墳の史跡整備を行い、隣接する西条廃寺や八幡町の宮山遺跡などとネットワークを形成しながら、文化財を生かしたまちづくりを進めたいと考えています。



## 新しい市指定文化財と国登録有形文化財

— 仏像2件、経典1件、建造物1箇所 —

加古川市教育委員会では、3月1日の定例教育委員会で、文化財審議委員会の答申を受け、如意寺(加古川町)の阿弥陀如来立像1軀、教信寺(野口町)の地藏菩薩立像1軀、鶴林寺(加古川町)の大般若経600帖の3件を、新しく市指定文化財に指定しました。また、尾上神社の本殿などが、国登録有形文化財に登録されることになりました。

これにより、市内の指定・登録文化財は、国指定

23件(うち国宝2件)39点、県指定35件54点、市指定51件1,357点、国登録5箇所21件となりました。

これらの指定・登録文化財をはじめ、市内にはたくさん文化財が伝えられています。地域の文化財は、心豊かな生活のために活用していくとともに、未来の人々のためにたいせつに保存していかなければなりません。

あみだにょらいりゅうぞう  
阿弥陀如来立像 1 軀 市指定 彫刻

木造古色 彫眼 像高95.5<sup>㍉</sup>

平安時代 (11世紀) 如意寺 (加古川町) 所蔵

如意寺の本尊として本堂に安置されています。聖徳太子作とも伝えられていますが、作者は不詳です。

内削りの無い一木造で、頭部の螺髪が小粒で丁寧に彫り出され、左手は下に垂らし右手は胸前にしたいわゆる上品下生印を結んでいます。腹部はやや大きく出ており、衲衣腰部のY字形衣文線が特徴的です。

簡素で力強いこの像は、表情はやや厳しく、体軀の表現も重厚感が残り、平安時代後期も早い頃の仏像の特徴を備えています。また、修理の痕も少なく像造当時のようすをよく残しています。

如意寺は、隣接する泊神社と関わりが深く、この地域の近世以前の神仏習合のようすを考えるうえでも興味深い仏像です。



阿弥陀如来立像 (如意寺)

じぞうぼさつりゅうぞう  
地藏菩薩立像 1 軀 市指定 彫刻

木造古色 彫眼 像高93.5<sup>㍉</sup>

鎌倉時代 (13世紀) 教信寺 (野口町)

教信寺本堂に安置されている地藏菩薩立像です。

平安時代の小野篁の手刻と伝えられていますが、作者は不詳です。

内削りの無い一木造で、優麗でやや鋭い面相をしています。左手は胸前に宝珠を捧げ、右手も臂を曲げて錫杖を握るいわゆる声聞形(しやうもんぎやう)の地藏菩薩立像です。体軀は自然な肉付きで、衲衣の衣文線も形式化が進んでおらず、鋭く刻まれています。

寺記によると、天正6年(1578)の羽柴秀吉の播磨攻めにより、諸堂(しよたう)が悉く焼けてしまったとき、不動坊海長と経蔵坊春盛が、本尊阿弥陀仏、地藏菩薩、

開祖の首面、土佐の画二軸を持ち出し、2年後に草堂一字を造立し、これらを奉安したとあることから、本像は、この寺記にある地藏菩薩と考えられるものです。

修理の痕はあるものの、全体に整った鎌倉時代初期の造像と考えられるもので、また、戦国時代以前の教信寺の歴史を伝える資料としても貴重なものです。



地藏菩薩立像 (教信寺)

たいはん にや きやう ちょう  
大般若経 600帖 市指定 書跡・典籍

紙本 木版刷 各縦25.8<sup>㍉</sup> 横9.2<sup>㍉</sup>

室町時代 宝徳4年(1452) 鶴林寺 (加古川町)

全600巻が揃った保存状況が良好な版本の大般若経で、近年まで転読に使用されていました。体裁は、1行17字、半面5行の折帖装で、全600巻が、10帖1帙で10帙ずつ6つの木箱に納められて保管されています。奥書から、宝徳4年(1452)に京都に住む沙弥道金が、大願主となって刷ったものであることがわかっています。また、木箱に宝徳4年の墨書が発見されたことから、装丁と木箱も当初のものであることがわかりました。

鶴林寺文書の中の塩田有政大般若経寄進状から、この大般若経は、文明19年(1487)に印南郡賀南條之内宿村の塩田有政が、先祖菩提などのため、銭20貫文で買取り鶴林寺に寄進したことがわかっています。

製作の経緯や来歴が明らかな室町時代の版本の経典として貴重なものです。



大般若経 (鶴林寺)

おのえ じん じゃ

尾上神社 4件 国登録 建造物

本殿（江戸後期）、幣殿（大正期）、  
 拝殿（明治初期）、隨身門（江戸後期／大正期・  
 平成7年改修）

尾上神社は、住吉大明神を祀る三間社流造の本殿と、  
 幣殿・拝殿を一直線に並べています。

神社は、重要文化財となっている朝鮮鐘尾上の鐘が  
 あり、また境内の尾上の松は、三代目が天然記念物  
 の指定を受け、現在は五代目となっています。

本殿は市内最古級の神社建築である可能性が高く、  
 室町時代の特徴を継承する建造物です。

幣殿は千鳥破風、拝殿は千鳥破風及び軒唐破風で、  
 ともに重厚かつ華やかな外観を見せています。

隨身門は、入母屋造で、虹梁に波の絵模様を刻んで  
 います。

このたび、本殿・幣殿・拝殿・隨身門が、「国土の  
 歴史的景観に寄与しているもの」として文化庁の登  
 録有形文化財に登録されました。



尾上神社

調査と報告

加古川市教育委員会では、文化財の保存のために、埋蔵文化財の発掘調査をはじめ、市内の文化財の調査を行っています。

平成17年度・18年度の発掘調査成果

平成17年度は、史跡整備事業に伴う尼塚古墳の発掘調査や、J R加古川駅側道整備工事に伴う溝之口遺跡の発掘調査を実施しました。

尼塚古墳の発掘調査は、主に大手前大学の指導のもとに行いました。その結果、この古墳は、全長約51.5mの造出付き円墳であることがわかりました。ま

た、葺石や円筒埴輪列も見つかりました。平成18年3月18日に行われた現地説明会には250人が訪れました。溝之口遺跡の調査は、約1,100㎡を調査し、弥生時代から奈良時代の溝多数や、13世紀の水田跡が見つかりました。

平成17年度の開発事業に伴う試掘・確認調査は、溝之口遺跡・観音寺城跡・石守構居跡など17件の調査を行いました。

平成18年度の開発事業に伴う試掘・確認調査は、溝之口遺跡・古大内遺跡・下村遺跡など16件の調査を行いました。



溝之口遺跡

文化財関係出版物

【普及図書】

『加古川市の文化財』（1988年改訂、A5判 123頁）	1,000円
『加古川市文化財図録』（1995年、A4判 107頁）	3,800円
『加古川市遺跡分布地図』（1994年改訂、A4判 291頁）	1,800円

【文化財調査報告書】

『奥新田西古墳』（2000年、A4判 41頁）	500円
『行者塚古墳シンポジウム記録集』（1998年、A4判 98頁）	1,000円
『溝之口遺跡Ⅰ』（1992年、A4判 112頁）	8,000円
『加古川市の民俗』（1985年、B5判 291頁）	1,200円
『カンス塚古墳』（1985年、B5判 16頁）	200円
『加古川市埋蔵文化財集報Ⅰ』（1983年、B5判 28頁）	500円
『東中遺跡』（1981年、B5判 106頁）	1,200円
『広尾東遺跡』（1980年、B5判 14頁）	500円
『山之上遺跡Ⅰ』（1977年、B5判 8頁）	200円
『岸遺跡』（1972年、B5判 23頁）	200円

保護と活用



本岡家住宅

文化財の公開

少年自然の家の敷地内に移築された県指定文化財本岡家住宅を公開しております。今年度は一般公開、特別公開、伝統文化こども教室などで市内外から多くの利用がありました。

文化財講座・市内見学会

地域の歴史や文化財についての理解を深め、文化財保護意識を高めるため、文化財講座を開催しています。

今年度は、青少年女性センターを会場に、9月30日に「昔の発掘調査と加古川流域の古墳」（松本正信先生）、10月7日に「邪馬台国時代の播磨と大和」（石野博信先生）、11月18日に「古代播磨の渡来文化」（亀田修一先生）を開催したところ、延べ245名の皆さんにご参加いただきました。

また、5月13日には文化財保護協会と共催で市内見学会「加古川周辺の文化財見学会～加古川駅から泊神社の文化財を訪ねて」を開催し、59名の皆さんにご参加いただきました。



市内見学会

加古川市教育委員会では、地域の文化財の保護を行うとともに、説明板の設置や文化財の公開を行うことで、文化財を身近に感じてもらうよう努めています。また、文化財保護協会をはじめ、地域の団体や機関とともに、文化財の保護と活用に取り組んでいます。

伝統文化こども教室

この事業は、我が国の伝統文化を各地域において、小・中学校生に体験・修得させ、次世代への継承を確かなものとし発展させることを目的としています。伝統文化活性化国民協회가文化庁より委嘱され、平成15年度から実施している事業です。今年度は市内で以下の7教室が開催されました。（ ）内は実施団体名。

- 百人一首 加古川教室（加古川百人一首協会）
- 伝統文化加古川箏こども教室（NPO法人 邦楽指導者ネットワーク21 加古川支部 箏曲 柳の会）
- 伝統文化いけばなこども教室（加古川市文化財保護協会）
- 子ども琴教室（加古川市立加古川公民館）
- 平之荘神社 子ども狂言教室（平荘町狂言保存会）
- 獅子舞・舞芸教室（福留日岡神社神事保存会）
- こどもいけばな教室（未生会加古川支部）



子ども琴教室

ぼくらは加古川探検隊

地域の自然や文化を、自ら足を運んで再発見してもらうため、「ぼくらは加古川探検隊」事業を実施しました。

夏休み期間に家族と探検してもらうため、市内の小学校3年生から6年生に、市内の自然や文化財を紹介したパスポートを配りました。